

## 5. 履修上限単位数

授業は、授業時間以外の学修を行うことを前提に実施されており、単位は週あたりの学修時間によって決められています。そのため、履修登録単位数には上限が設けられており、無制限に単位を修得できるわけではありません。1年間に履修可能な登録単位数は次のとおり定められていますので、十分注意して登録してください。

教職・資格科目の履修の有無により登録単位数の上限は異なります。下の表を確認し、十分注意して登録してください。

### (1) 履修登録単位の上限

#### ◆ 教職・資格科目を履修しない場合の履修上限単位数（2013年度以降入学生）

科目		学年			
		1年	2年	3年	4年
総合教育科目	年間	42	42	42	42
専門教育科目	年間				
再履修科目（前年度未履修単位含む）		0	+7	+7	+7
再履修含む場合の上限単位数		42	49	49	49

- 第4年次においては総合教育科目・専門教育科目より4単位以上修得しなければなりません（第3年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も含みます）。
- 2年生以降の再履修科目については、7単位を上限とします。
- 半期毎の履修登録単位については上限を設けませんが、下記を目安にして、一方の学期に履修が偏りすぎることのないよう計画的な学習計画を立ててください。

#### ◆ 教職・資格科目を履修する場合の履修上限単位数（2013年度以降入学生）

科目		学年			
		1年	2年	3年	4年
総合教育科目	年間	42	42	42	42
専門教育科目	年間				
再履修科目（前年度未履修単位含む）		0	+7	+7	+7
教職科目		+10	+24	+24	+24
資格科目 （司書・社会教育主事・学芸員など）		+12			
教職・資格・再履修含む場合の 上限単位数		64	66	66	66

- 第4年次においては総合教育科目・専門教育科目より4単位以上修得しなければなりません（第3年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も含まれます）。
- 資格科目（図書館司書・学校図書館司書教諭・社会教育主事・博物館学芸員）については、「教職・資格・再履修を含む場合の上限単位数」内であれば、上限はありません。
- 1年生は、教職科目10単位（資格科目12単位）を上限とします。
- 2年生以降の再履修科目については、7単位を上限とします。
- 半期毎の履修登録単位については上限を設けませんが、次の表を目安にして、一方の学期に履修が偏りすぎることのないよう計画的な学習計画を立ててください。

## （2）半期履修上限の目安

【春学期】22単位 【秋学期】22単位

- ◆ 上記単位数はあくまで上限の目安です。どちらか一方の学期に履修単位が集中しないよう計画をたて、上記の目安を参考にして、春学期科目単位数+秋学期科目単位数+通年科目単位数が42単位を超えないように履修してください。
- ◆ 履修単位の計算方法は以下のとおりです。

春学期授業科目 の履修単位数	+	秋学期授業科目 の履修単位数	+	通年授業科目 の履修単位数	≤	年間履修上限 単位数
-------------------	---	-------------------	---	------------------	---	---------------

## （3）再履修とは

以下に示す条件において、その不足単位数を補填するために履修することを言います。

- 履修登録をした科目を履修した結果、不合格（D及びE評価）となった単位数
- 履修登録上限単位数まで履修登録せず、未登録となった単位数

再履修単位	1年次	(1年次配当単位数合計) - (修得済卒業所要単位) 42単位
	2年次	(1年次配当単位数合計) - (修得済卒業所要単位) 42単位
	3年次	(1・2年次配当単位数合計) - (修得済卒業所要単位) 84単位
	4年次	(1・2・3年次配当単位数合計) - (修得済卒業所要単位) 132単位

## （4）卒業保留者の注意点

単位不足で卒業保留となった者は、次頁の表のとおり、未修得単位数により登録可能単

位数が異なるので注意してください。

未修得単位 24 単位以内	年間登録可能単位数 42 単位 (教職・資格科目を含める場合は 66 単位)
未修得単位 25 単位以上	年間登録可能単位数 66 単位 (教職・資格科目を含める場合も 66 単位)

## 6. 時間割作成手順

### ◆ 1 年生の時間割は以下のような手順で作成しましょう。

※あくまでも参考です。その年の開講曜日・開講時限（時間割）にならって履修してください

#### (1) 「スポーツ健康学入門」・「スポーツ実習入門」を入れる。

はじめに、クラス指定されている上記必修科目を時間割表に埋め込んでください。

#### (2) “外国語科目”を入れる。

「総合英語」で外国語科目を履修する場合は、クラスの指定に従って、時間割表に埋め込んでください。会話力を磨きたい方や、将来留学を考えている方は「英語コミュニケーション」や ERP 科目（P.76 参照）を履修することをお勧めします。外国語科目群の中で、2 年次までに 8 単位以上修得できるように計画して履修してください。

<外国人留学生>

外国人留学生は、卒業までに日本語 6 単位＋英語 2 単位の計 8 単位を修得する必要があります。1 年次は以下の表に従って履修してください。

日本語	英語
4 科目（4 単位）必修 日本語 1-I・1-II・2-I・2-II	2 科目（2 単位）選択 総合英語 I (a) (b)・II (a) (b)・ 英語コミュニケーション I (a) (b)

※英語は 2 年次以降の履修でも可能です。

※「日本語」及び「総合英語」を履修する際は、指定されたクラスで授業を受けること。

#### (3) 必修科目を入れる。

視野形成科目の中にある「スポーツとキャリア形成」や必修に指定されている専門基礎科目（「生理学」、「機能解剖学 A」、「スポーツ哲学」、「スポーツ社会学」、「ヘルスデザイン論」、「スポーツ心理学 A」、「スポーツ史」、「スポーツビジネス論 I」、「スポーツコーチング論 A」）を時間割表に埋め込んでください。スポーツ健康学の基本的知識修得を目的としていますので、1 年次にできるだけすべての科目の単位を修得し、2 年次以降の学習の準備となるようにしてください。

#### (4) “専門基幹科目”を入れる。

2～4 科目程度履修するのが望ましいでしょう。興味のあるコースがある人は下記を参考にしながら履修してください。複数のコースに興味を持っている人はそれぞれから 1 科目ずつ履修するなど工夫すると良いでしょう。

## 2. 卒業要件

卒業は、4ヵ年（最長8ヵ年）在籍し、下記卒業要件を満たした者に対して認められます。

### ◆ 卒業要件単位

科目分類	総合教育科目		専門教育科目			
	外国語科目	視野形成科目	専門基礎科目	専門基幹科目	専門科目	専門演習
必要 単位数	8単位以上	20単位以上	23単位 (必修)	12単位以上 (必修選択)	選択したコースから 20単位以上	選択
	28単位以上				50単位以上	
	84単位以上					
卒業所要 単位数	124単位					

## 3. 修業年限および在学年限

本学の修業年限は4ヵ年です。また、休学期間を除き、本学に8ヵ年を超えて在学することはできません。なお、春学期に在学し、秋学期に休学・退学及び除籍になった場合の在学期間は0.5年となります。

また、2年次転・編入者の在学できる期間は6ヵ年、3年次転・編入者の在学できる期間は4ヵ年となります。

## 4. 早期卒業について

以下の条件を満たす者に3年次の学位授与（早期卒業）を認めています。

- 本学部に3年以上在学し、卒業の要件として各学部が定める単位を優秀な成績をもって修得したと認められる者とする。ただし、再入学（復学・復籍）、転・編入学および転籍した学生は、早期卒業の対象とならない。
- 本学部の定める卒業所要単位のうち、9割以上がA評価以上（ただし、R、S、P評価は含まない）であること。
- 3年次終了時点の卒業所要単位対象履修科目におけるGPAが3.0以上であること。  
(詳細は、『法政大学早期卒業に関する規則』参照)